

お客様と日本ガスをつなぐコミュニケーションマガジン

ひだまり

NIPPON GAS COMMUNICATION MAGAZINE

vol.04
Winter 2013
Free Magazine



《特集》

心地いい暮らしを楽しむ。

《鎌下先生のハッピーレシピ》郷土のお菓子を楽しくアレンジ

《快適生活のススメ》ガス温水床暖房&マイケアミストのススメ

《火力自慢、味自慢。》桜島マグマ

《暮らしのカatalog》暮らしとともに育てるデザイン



蒲生の古民家改修は、ダブルソーラー（太陽の熱と光）を設置したゼロエネ住宅。



村田義弘 むらたよしひろ
1958年、鹿児島市生まれ。
明治大学工学部卒業。東京の建築事務所に勤務した後、1998年に帰鹿。翌年「建築工房自然木」を設立。自然素材を使い、環境にやさしい家づくりにこだわる。

お問い合わせ先／099-812-5701

<http://homepage2.nifty.com/jinenmoku/>



窓際の床は蓄熱性能が高いタイル貼り。東西の窓から抜ける風も気持ちいい。

じねんもく

建築工房 自然木

自然素材にこだわり、環境にやさしい家を

1999年の会社設立以来、建築工房自然木の村田義弘社長は、自然素材を使用し、環境にやさしい家づくりにこだわっています。

なるべく地場の木材を使用し、施主が山を持っていれば、その山の木を使って家を建てることをすすめているそうです。

「産地のはっきりした木材を使うことは、健康志向の家づくりでは必須です。近くの山の木を使えば、環境負荷も小さいし、故郷の山の木には愛着もわくと思います」

そんな村田社長が最近重視しているのが、パッシブデザインという考え方。これはエアコンなどの機械を出来るだけ使わずに、自然の力（太陽の熱、光、風など）によって快適な暮らしをしようとする設計や手法のことです。考え方自体は以前からありましたが、ここ最近、ようやくそのコンセプトに技術が追いついてきたと村田社長は言います。

「まだあまり知られていない手法なので、こんな技術もあるんですよと僕の方から提案することもあります。また、エネルギー削減

の観点から、ガスは電気より輸送時のエネルギーロスが少ないので、省エネに関心のあるお客さまにはガスをおすすめしています」

さらに同社では、家を建てる場所の気候風土や太陽の日の射し方や風向きまで調査するというから驚きです。それらを踏まえたうえで、気密性や断熱性、蓄熱性を考慮した設計を提案しています。

もちろん、最も大切なのは実際に住む人の思い。住宅というハードだけでなく、どのように暮らしていきたいかという、生活スタイルと一緒に考えることを村田社長は重要視しています。そのため、施主との打ち合わせはお互いが納得するまでとことん繰り返すそうです。

「心地いい暮らしというのは人それぞれだと思います。その中で、なるべく環境に配慮したご提案をこれからも続けていきたいと思っています。そうすれば家は長持ちする。結果的に、エコにつながると思うんですよ」

自然に負荷をかけない、環境にやさしい家を目指して、自然木の挑戦はまだまだ続きます。